様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 22 年　4 月　20 日現在

研究種目：若手研究（Ｂ）
研究期間：2008　～　2009
課題番号：２０７００４９６
研究課題名（和文）　ポストコンフリクト社会のスポーツの発展に関する研究

研究課題名（英文）　The Development of Sport in the Post-conflict Society

研究代表者
岡田　千あき（OKADA CHIAKI）
大阪大学・大学院人間科学研究科・准教授
研究者番号：４０３３５４０１

研究成果の概要（和文）：
本研究では、ポストコンフリクト（紛争後）期という社会の混乱期に実施された「地域住民による自発的なスポーツ活動」に期待された役割を明らかにすることを目的に、カンボジア王国シェムリアップ州で実施されている事例の検証をした。
現地調査の結果から、「開発手段としてのスポーツ活動に期待された役割は、内発性を引き出すことである」という結論を得た。内発性とは、開発途上国の社会開発、人間開発の議論の中心になりつつある概念であり、人々の内発性が引き出され、適切なエンパワメントがなされることが、開発分野に求められている課題でもある。

研究成果の概要（英文）：
The purpose of this study is to clarify the expected roles of a sport activity in the post conflict societies .The field-studies executed in Siem Reap prvince, Cambodia.As a result, one of the main expected role of sport activities tu induce people's spontaneousness,autonomy and volunteerism. Those has been recognized as essential in development studies, too and to motivate people in their community(empowerment)is most important thing not only for the international development but also for development through sport.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００８年度	1,900,000	570,000	2,470,000
２００９年度	1,400,000	420,000	1,820,000
年度			
総　計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：スポーツ社会学

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学　スポーツ科学

キーワード：ポストコンフリクト、スポーツを通じた開発、内発性、コミュニティ開発、カンボジア

１．研究開始当初の背景

近年、深刻化する貧困や紛争は、特に開発途上国の発展を妨げ、国際協力の必要性がますます強く認識されている。日本を始めとした先進諸国もあらゆる開発協力を展開しており、この中で開発手段としてスポーツを活用する事例が散見される。スポーツを基本的人権とした1978年の”Development through Sport”の概念、すなわちスポーツを通じた開発と平和への貢献に関する議論が開始されている。

これまで、ポストコンフリクト期の数カ国を対象に社会の混乱期におけるスポーツの導入に関して、現地調査を元に研究を進めてきた。当該地域では、不安定な治安や教育機会の欠如に起因する失業、非行、麻薬、軽犯罪などの一見、個人的で軽微に見られがちな、生活に密着した「地域固有の社会問題」が深刻であった。これらの問題は、適切な対処がなされない場合に復興・開発の大きな足かせとなるが、現実には、公的セクターによる迅速な解決が困難であり、コミュニティ主導の自発的活動に解決の糸口を求めざるを得ない。その際の自発的活動の契機として、特に対象が子どもや青少年である場合にスポーツが活用される事例が複数見られ、現場においてはスポーツの意義が理解され、幅広く活用されている。しかし、これまでこれらのスポーツ活動については、殆ど明らかにされておらず、活動の成否や成功要因の検証は、2000 年以降の少数の研究でなされているのみである（J.L-Howarth [2006], W.Andreff [2005], B.Henley [2005] など）。

２．研究の目的

本研究の目的は、ポストコンフリクト（紛争後）期の国・地域において、社会の混乱期に実施された「地域住民による自発的なスポーツ活動」の詳細を考察することにより、この時期のスポーツに期待された役割を明らかにすることである。本研究では、「地域住民による自発的なスポーツ活動」の一事例として、カンボジア王国のシェムリアップ州で実施されているシェムリアップホテルフットボールリーグ（Siem Reap Hotel Football League:SHFL）を取り上げ、検証を行った。

３．研究の方法

（１）先行研究のレビューと分析枠組みの構築

2008 年度にコミュニティ・スポーツに関する基礎情報の整理とコミュニティ・スポーツ研究の整理を行った。

（２）カンボジアにおける現地調査

2008 年度に「実業団リーグ」に関する基本的情報の収集を、2009 年度にはカンボジアのコミュニティに関する基礎情報の整理、SHFL 参加選手に対する質問紙調査を現地にて実施した。

（３）補足調査とまとめ

これまでの研究の成果をまとめ、SHFL 関係者に配布すると共に、研究結果への考察を求めた。その結果を踏まえた最終的な研究の成果をまとめ、論文・学会での発表を行った。

４．研究成果

本研究では、関連先行研究を参考に分析モデルを構築し、形成段階、実施段階、成果段階

に分割したモデルに沿って複数回の現地調査を実施した。形成段階の評価では、「コミュニティ型スポーツクラブの形成過程モデル」に依拠し、活動が形成され発展する過程を 7 段階に分けて分析した。その結果、「SHFL の関係者が認識した課題」への対応策としてスポーツを活用した様子が浮かび上がった。実施段階の評価では、SHFL が有した 3 つの問題事例について、問題が生じた背景と SHFL によってなされた対処の検証から、SHFL 自体が持つ理想や将来像を読み取った。成果段階の評価では、全登録選手に対して質問紙調査を行い、90.8%と高い有効回答率を得た。調査の結果から、選手として活動に参加する度合いが高い者ほど、SHFL が定めた目標である「生活満足度」、「自信」、「グループの凝集性」、「コミュニティ・モラール」の 4 要因が高いことが明らかになった。

これらの現地調査の結果から、「開発手段としてのスポーツに期待された役割は、内発性を引き出すことである」という結論を得た。内発性は、正に開発途上国の社会開発、人間開発の議論の中心になりつつある概念であり、人々の内発性が引き出され、適切なエンパワメントがなされることが、開発分野に求められている課題でもある。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 4 件）

① 岡田千あき、「カンボジアの現代コミュニティに関する一考察」、大阪大学大学院人間科学研究科紀要、査読無、第 36 巻、197 頁～217 頁、2010 年

② 岡田千あき、「スポーツを通じた開発－国際協力におけるスポーツの定位と諸機関の取組み－」、神戸大学大学院人間発達環境学研究科紀要、査読有、第 3 巻第 1 号、39 頁～47 頁、2009 年

③ 岡田千あき、「スポーツを通じたコミュニティエンパワメント」、大阪大学大学院人間科学研究科紀要、第 35 巻、査読無、1 頁～20 頁、2009 年

④ 岡田千あき、「開発途上地域におけるコミュニティ・スポーツ活動の評価枠組み」、運動とスポーツの科学、第 14 巻第 1 号、査読有、109 頁～115 頁、2008 年

〔学会発表〕（計 7 件）

① 岡田千あき、「開発途上国におけるスポーツの発展とそのジレンマ－競技性とスポーツ・フォー・オールのはざまで－」、日本運動スポーツ科学学会国際健康・スポーツ部会第 7 回大会、2009 年 8 月 24、25 日（大阪大学）

② Chiaki Okada, “A Study of a Community Sport Activity in Cambodia -Case Example and Achievement-”, 6th World Congress of International Sociology of Sport Association, 15-18 July 2009, Utrecht The Netherlands

③ 岡田千あき、齊藤一彦、「開発途上国におけるコミュニティ・スポーツ活動への参加」、日本運動スポーツ科学学会第 16 回大会、2009 年 6 月 21、22 日（九州保健福祉大学）、優秀発表賞受賞

④ Chiaki Okada, “Introduction of Sport into the Post-conflict Societies -A Comparative Study of Bosnia-Herzegovina, The Kingdom of Cambodia and East Timor-”, ICSSPE Second International Seminar “Sport in Post-disaster Intervention” (Poster

Session), 1-7 November 2008, Rheinsberg Germany.

⑤ 岡田千あき、「カンボジア王国におけるコミュニティ・スポーツ活動の評価に関する研究」、日本生涯スポーツ学会第 10 回大会、2008 年 10 月 18、19 日（名桜大学）

⑥ Chiaki Okada, "International Development through Sport from the Perspective of ODA Strategies of DAC Countries" ,5th World Congress of ISSA, 27-29 July 2008, Kyoto Japan

⑦ 岡田千あき、「開発途上国における"コミュニティ・スポーツ"活動の形成過程に関する研究－カンボジアサッカーリーグを事例として－」、第 18 回日本スポーツ社会学会、2008 年 3 月 17、18 日（関西大学）

６．研究組織

(1)研究代表者

岡田　千あき（OKADA CHIAKI）
大阪大学・大学院人間科学研究科・准教授
研究者番号：４０３３５４０１